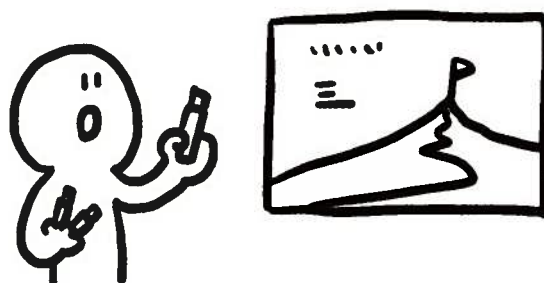


グラフィック・レコーディング

模造紙やホワイトボードなどに、絵と文字を用いてリアルタイムに議論の可視化をする技術です。導入する目的によって名称が異なりますが、同じ技術を指します。一般的に、話されたことを記録することが目的であれば「グラフィックレコーディング」、可視化を用いながら議論を促していくことが目的であれば「ファシリテーション・グラフィック」と呼ばれることが多いです。

～グラフィック・レコーディングを導入することでできること～

- ・安心して話せる場づくり（話しづらい人も場に参加できる）
- ・集まって意味のある時間づくり（ぶれない議論ができる）
- ・積み重ねてきたものの見える化（これまで何を議論してきたかぱっと見てわかる）



グラフィック・レコーディングの3つの役割

①情報の交通整理、情報保障

話されたことを紙に整理することで、議論の論点や道筋が明確になり議論を活性化する役割があります。また議論が苦手、自分の意見をまとめるのに時間がかかる人でも、安心して場に参加できるためのサポートの役割もあります。

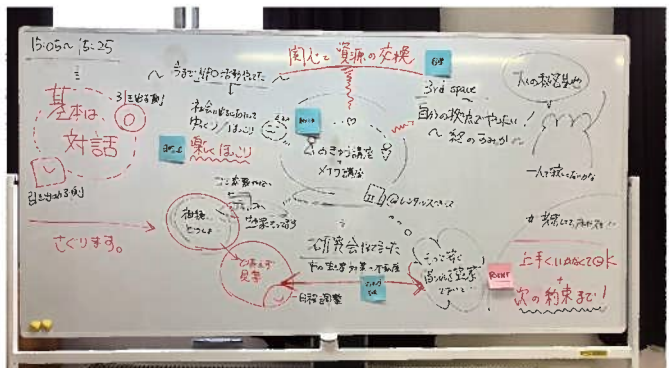
②場の記録

議事録や写真、動画など、その場で記録するための媒体は何種類かあります。リアルタイムに一枚の記録物にすることによって、その場で確認するための記録物、議論を終えてから振り返るための記録物、その場にいなかった第三者に説明するための記録物として形する役割があります。

③価値観や共通言語の違う人同士の橋渡し

その場にいる人が描き出すことによって、意見や言葉の裏にある価値観や感情、文化などの目に見えないものも可視化することができます。言葉だけで議論するのではなくお互いの違いを視覚的に捉えることで、議論を豊かにするための土台をつくる役割があります。

- [illegible]



(右下) イベントのプログラムを記録